

「自分で考える・みんなで考えるおいしい学び

ー 学習者と教師の自律学習能力アップのための味付け ー

奥村 三菜子 (鹿児島キャリアデザイン専門学校)

講義 1

スイス日本語教師の会・第22 回分科会 (2017 年9 月10 日)


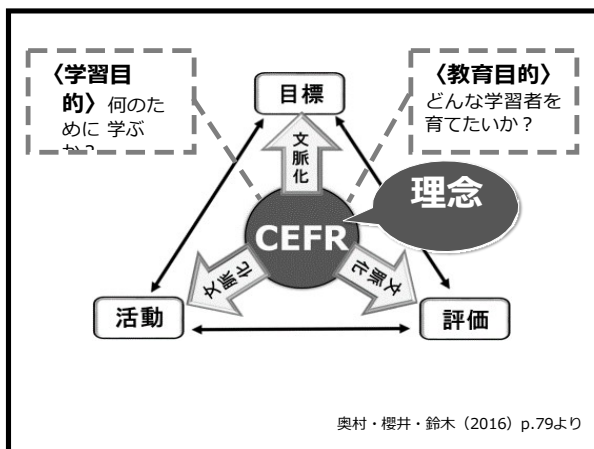
**自分で考える・みんなで考える
おいしい学び**
ー 学習者と教師の自律学習能力アップ
のための味付けー

奥村 三菜子
minako.okumura.jp@gmail.com

本日のメニュー

<前菜>

1. 自律学習はおいしいのか?
2. 明日からできる
「自律学習能力」アップのための味付け
3. 一緒に考えよう、最初の一手! :
「自律学習能力」アップのための味付け法

CEFRが示す「コミュニケーション能力」 (CEFR 第五章)

一般的能力 (General competences) / コミュニケーション言語能力 (Communicative language competences)

- ・叙事的能力 *Declarative knowledge* (世界の知識、異文化への意識 等)
- ・技能とノウハウ *Skills and know-how*
- ・実存的能力 *Existential competences* (性格、価値観、信条 等)
- ・学習能力 *Ability to learn* (発見技能、勉強技能 等)
- ・言語構造的な能力 *Linguistic competences* (語彙能力、文法能力、読字能力 等)
- ・社会言語能力 *Sociolinguistic competences*
- ・言語運用能力 *Pragmatic competences* (ディスコース能力、機能的な能力 等)

自律学習能力

1. 自律学習は おいしいのか?

ほとんどがグループ学習だったおかげで、以前より自分で考えることが多くなったと思います。自分で考えることで、いつまでも頭の中に記憶が残り、いろいろな場面で役に立ちました。数学を通して、自分で考えることの大切さを改めて知ったように思います。
(牧田・秋田 2012, p.180より)

私はボン大学に入学して以来、学生達と協力し助け合うという事の大切さを実感しました。これらは貴重な経験であり、日本語の授業のおかげです。

生教材 (レリア) / て形 / スキーマ
ロールプレイ / 母語の干渉 / 自律学習

日本語教育関連の用語、わかりますか? どのくらい?

◆ 先行知識の評価

- ・表面的に知っているレベル (その語を聞いたことがある)
- ・事実を知っているレベル (定義できる)
- ・概念を理解しているレベル (他人に説明できる)
- ・応用できるレベル (それを使って問題を解決できる)

アンブローズ他 (2014) p.43

| | | |
|--------|-------|------|
| 生教材 | て形 | スキーマ |
| ロールプレイ | 母語の干渉 | 自律学習 |

レベル1. 聞いたことがある (情報の有無)
 レベル2. 意味がわかる (知識の有無)
 レベル3. 他人に説明できる (知識の理解)
 具体例が挙げられる
 レベル4. 課題に適用できる (知識の応用)
 実践に応用できる

〈おまけ〉 情報・知識は容易に得られる時代!

| | |
|-------|------------|
| 教師の場合 | 生教材 (レアリア) |
|-------|------------|

レベル1. 聞いたことがある 養成講座の本で見た。
 レベル2. 意味がわかる 学習者向けに加工されていない実物。
 レベル3. 他人に説明できる 学習者のレベルや活動に
 具体例が挙げられる 例) 新聞記事、通称、道具、日本人...等
 レベル4. 課題に適用できる 明確な理由に基づき、よりよい授業のために生教材を有効活用。
 実践に応用できる

| | | |
|--------|--------------|----|
| 学習者の場合 | どこまで求めたいですか? | て形 |
|--------|--------------|----|

レベル1. 聞いたことがある T: 「見てください」
「聞いてください」
 レベル2. 意味がわかる 作り方がわかる。
 レベル3. 他人に説明できる て形が作れる。
 具体例が挙げられる て形を使って文が作れる。
(例: ~てもいいですか)
 レベル4. 課題に適用できる コミュニケーション場面で使える。
 実践に応用できる 誤ったときに自力で修正できる。

【中級実践の例】

<実践目的>

- ・ 自律的学習ストラテジー (問題解決能力) の獲得
- ・ 協働学習の促進

◆グループワーク

- ・ 文法授業の準備→文法授業
- ・ 宿題のチェック
- ・ 文型作文の作成とピアチェック

<対象者>
日本語科の大学生 (卒業年次: 3年生)
 <実践背景>
コースにおける初めての自律・協働学習実践

学生への配布プリント (学期開始時)

A. 文法

- ・ みなさんが「先生」です! みなさんに「文法の授業」をしてもらいます。
- ・ L11の先生グループ、L12の先生グループ、L13の先生グループに分かれます。
- ・ 「授業」は日本語でもドイツ語でもOK。(日本語のほうがかっこいいですね)

1. 「授業」の準備

- ①まず、グループで方法や担当について相談しましょう。
- ②それぞれの文型に「オリジナル例文」を三つずつ用意してください!
 * 授業の前に先生に送って、チェックしてもらいましょう。
- ③「文型作文」の「オリジナルテーマ」を一つ考えてきてください。

2. 「授業」の方法

- ・ ホワイトボード、パワーポイント、プリントなど、何を使ってもOK。
- ・ 全部で30分ぐらいです。
- ・ 「先生」ではないクラスメートは、いつでも質問してもいいです。

【中級実践】 <学生フィードバック: 肯定的な意見>

- ・ わからない人間が教えるのは、どこがわからないか知っているから効果的だ。
- ・ ドイツ人が説明する方が、ドイツ人の間違いやすい点がわかっているのいい。
- ・ この授業で、文法だけではなく、他人に日本語でどう説明すればいいかも学ぶことができた。これは、将来きつと役にたつと思う。
- ・ 自分がやらないとダメなのはよい勉強になった。

(渋谷・石澤 2010より抜粋)

【中級実践】 <教師フィードバック：効果>

- ・準備してこなかった学生が仲間からの批判にあり、それからは必要最低限の準備をしてくるようになった。
- ・理解が遅い学生に対し、クラスメートからの支援が生まれた。
- ・文法学習だけでなく、学習の方法にまで話し合いが及んだ。
- ・学習者同士ゆえに、納得できるまで自由に質問できる。
- ・クラスメートから質問を受けることによって、自分とは異なる新たな視点から文法を見直すきっかけを得た。
- ・教師は、学生個々人の問題点をピンポイントで指導できた。

(渋谷・石澤 2010より抜粋)

【中級実践】 <学生フィードバック：批判的な意見>

- ・念のため先生と一緒にチェックしたかった。
- ・教師の短い説明が欲しかった。
- ・私は先生に教えてもらう授業の方がよかった。
- ・準備してこない人がいたとき困った。
- ・グループワークに参加しない人がいた。

(渋谷・石澤 2010より抜粋)



「学習とは教師から教えてもらうもの」という価値観から離れられないことに起因していると思われる。

【中級実践】 <教師フィードバック：反省>

- ・一部責任感に乏しい学生がいた。
- ・学生の責任感を喚起するためには、学期開始時にこのスタイルで勉強することの意味課題を怠ることで他人に与える迷惑 について、説明し、理解させておくべきであった。
- ・本 Semester で突如こうした指導方針に切り替えるのでは学生が混乱するため、早い段階からこうした学習スタイルに慣れてもらう必要がある。

(渋谷・石澤 2010より抜粋)

言語学習ビリーフの変化

(BALLI: Beliefs about Language Learning Inventory : ポン大学2009年)

≪1年生・3年生の間で最も大きな有意差が出た項目≫

1年生：「賛成」多数 → → → 3年生：「反対」多数

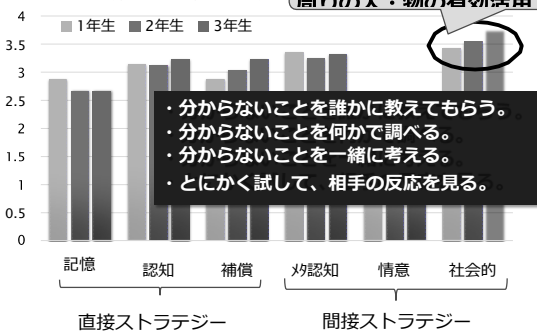
「正しく言えるようになるまでは、日本語で話してはいけない」

「日本語学習の中で一番大切なのは、自分の母語からの翻訳を学ぶことだ」

奥村 (2009) より

言語学習ストラテジー

(SILL: Strategy Inventory for Language Learning, ポン大学 2009年)



奥村 (2009) より

<学習者のbefore-after>

・言語学習ビリーフ

「正しく言えるようになるまでは、日本語で話してはいけない」

ことばの・・・

使い方

(運用)

・言語学習ストラテジー

「社会的ストラテジー」の多用

学び方

(問題解決)

社会的リソースを用いながら、のびのびと言語学習を行う学習者へ

「グループワーク」「自己評価」の積み重ねによる?

奥村・辻 (2011) より抜粋

〈教師のbefore-after〉

第1期 (目標・評価)
 文型シラバスから機能シラバスへ
 >教科書のノルマはほぼ果たせた
 >書き順をどの程度徹底させるべきか
 >授業の始まりに必ず小テストを取り入れた

第2期 (活動)
 自律・協働学習の導入
 >グループ・ペアワークを多くしなさいと言われて最初は戸惑った。読解の授業でなぜグループワーク？
 >どうしてもトップダウン形式になりがちだった授業を改めグループ活動を率先して取り入れた

「なぜ？」の言語化と内省

第3期 (評価)
 自己・ピア評価の導入
 >今までは意味を教えていたけれど、それは学生自身に考えさせればいいんですよね
 >教師の役割ってというのは、教えるのではなく、勉強の手助けをする。道を導いてあげる、それが教師かなって、最近思うようになってきて...

【初級実践の例】 「助詞のまとめ学習」

ステップ1: 「いろいろな例文づくり」 (グループ)
 ↓
 ステップ2: 助詞の使い方を考察 (グループ)
 ↓
 ステップ3: 「わたしのまとめ」 (個人作業)

＜対象者＞
 入門から半年間を経た、高卒のベトナム人留学生

＜実践教師＞
 初めての自律・協働学習実践者 (教授歴: 平均約4年)

【ステップ1】
 「いろいろな例文づくり」
 (グループ)

| 助詞まとめ | |
|-------|---|
| 助詞 | 例文 |
| が | 日本人は、かみが黒いです。 Aさんはピアノをひくことができます。 私はニューヨークへ行ったことがあります。 何が食べたいですか。今日は、寿司が食べたいです。 |
| の | これはだれのかばんですか。 日本の事は、しょうぶでいいです。 山の上にゆうひんきょくがあります。 |
| と | 私は英語と日本語がわかります。 いつもだれとごはんを食べますか。 |
| で | 駅は、図書館で勉強しています。 「こんにちは」はベトナム語でなんですか。 自転車でスーパーへ行きます。 インド人は手でカレーを食べます。 |
| を | 日曜日とはちだちとサッカーをします。 朝いつからまでを起しますか。 毎朝何時に部屋を出て、学校に行きます。 |
| | 机の上にとこばんがあります。 |

【ステップ2】
 「助詞の使い方を考察」
 (グループ)

| 助詞 | 使い方の例 |
|----|---|
| に | 日本語を勉強するためにベトナムに来ました。 （日本語を勉強するためにベトナムに来ました） |
| は | 日本語は、ベトナム語と似ています。 |
| と | 日本語とベトナム語は、似ています。 |
| で | 日本語を勉強するためにベトナムに来ました。 （日本語を勉強するためにベトナムに来ました） |
| を | 日本語を勉強するためにベトナムに来ました。 （日本語を勉強するためにベトナムに来ました） |
| と | 日本語とベトナム語は、似ています。 |
| で | 日本語を勉強するためにベトナムに来ました。 （日本語を勉強するためにベトナムに来ました） |

・はっきりじゃんやばしうの前に
 ・だれ [に] もらう/あげる/あう
 ・「に」+はいる/のる/とまる/のぼる

・しゅみ、きぼう
 ・「が」+あります、います、わかります

【ステップ2】
 「助詞の使い方を考察」
 (グループ)

| 助詞 | 使い方の例 |
|----|---------------------|
| に | 時間を、どこへ行くか、かえります... |
| を | どこへ行くか、かえります... |
| と | だれの、なんの、どこの |
| で | だれとなにをしますか |

・なにをあげます。
 ・なにをしますか。

どこへ行きます、かえります...

だれの、なんの、どこの

だれとなにをしますか

【ステップ3】
 「わたしのまとめ」
 (個人作業)

| わたしのまとめ | |
|---------|-------|
| 助詞 | 使い方の例 |
| に | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

【初級実践】 <担当教師の所感>

| | メリット | デメリット |
|-------|--|--|
| 教師主導 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の準備がラク ・授業進度が安定する ・教師間の連携が不要 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを忘れやすい ・同じ失敗を何度も繰り返す ・どうして間違ったのか自分で気づけない ・教師に判断を委ねる |
| 学習者主体 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ失敗をしても、自力で解決できる ・問題解決能力が身につく ・自分のレベルやペースに合わせて学べる（均一の期待値／ゴールがないから） | <ul style="list-style-type: none"> ・活動のアイデア創出にエネルギーが必要 ・授業活動の時間がかかる ・学習のスピードも量も質も個人差が大きい ・教師間のコミュニケーションが不可欠で手間もかかる |

言語学習の過程は**持続的**であり、かつ**個人差**がある。どんな言語の話し手でも、母語話者であろうと外国語を話す場合であろうと、二人として完全に同じ能力を持った者はいないし、同じ学習の道をたどった者はいない。

(CEFR: 2.2)

学びを学び手の元に返す！

「外国語の学びは、その学習者にとって本来パーソナルな体験であるはずで。」 (清田洋一 2017「はじめに」より)

このぐらいは
できてもらわないと困る

- ・「このぐらい」とは、どのぐらい？
- 誰が困るのか？
- なぜ困るのか？

このぐらいはできないと困る

と、**本人**が言ったときに学びのチャンス！

<引用文献>

奥村三菜子 (2009) 「CEFR実践と日本語学習ピリフスおよびストラテジーの変化—BALLIとSILLの調査結果から—」『日本語教育連絡会議論文集』Vol.22, pp.121-130.

奥村三菜子・辻香里 (2011) 「言語教育観を共有するために—教育現場における『体験』の積み重ねを通して—」『ヨーロッパ日本語教育』15, pp.70-76, ヨーロッパ日本語教師会.

奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子 (2016) 『日本語教師のためのCEFR』くろしお出版

清田洋一 (2017) 『英語学習ポートフォリオの理論と実践—自立した学習者を目指して』くろしお出版

渋谷順子・石澤多嘉代 (2010) 「日本語：教師沈黙型文法授業—自律学習、協働学習の最終的な形—」『ヨーロッパ日本語教育』14, pp. 69-75, ヨーロッパ日本語教師会.

スーザン・A・アンブローズ他, 栗田佳代子 (訳) (2014) 『大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための7つの原理』玉川大学出版部.

牧田秀昭・秋田喜代美 (2012) 『教える空間から学び合う場へ—数学教師の授業づくり—』東洋館出版社.

<セッション2>は、4~5人のグループで行います。
13:15までにグループをつくって、ご着席ください。

お昼休み



スイス日本語教師の会・第22回分科会（2017年9月10日：奥村）

2. 明日からできる 「自律学習能力」アップのための 味付け

A

●文の意味を考えて、_____を書いてみましょう。いろいろな表現がありますね。

- 大雨 _____ 福岡の被害は甚大である。
- ニュースによると、この大雨で多くの人が家を失ってしまった _____。
- 今、「災害マニュアル」 _____ 救助が行われている。
- 自衛隊は、人命救助 _____ 避難所の食事の準備も行っている。

2. ニュースによると、
この大雨で多くの人が家を失ってしまった _____。

5. 風呂に入る _____、
こちらに必ずお名前をお書きください。

5. お風呂に入る _____、
こちらに必ずお名前をお書きください。

2. ニュースによると、
この大雨で多くの人が家を失ってしまった _____。

学生たちの自由発言→ そうだ
らしい
という
学習項目の適応→ ということだ

5. お風呂に入る _____、
こちらに必ずお名前をお書きください。

時
学生たちの自由発言→ 前に

場合
学習項目の適応→ 際に ~という ~に基づく
際は ~と同時に ~による ~際に

B

~という ~に基づく ~と同時に ~による ~際に

- 大雨 _____ 福岡の被害は甚大である。
- ニュースによると、この大雨で多くの人が家を失ってしまった _____。
- 今、「災害マニュアル」 _____ 救助が行われている。
- 自衛隊は、人命救助 _____ 避難所の食事の準備も行っている。

~という ~に基づく ~と同時に
~による ~際に

5. お風呂に入る _____、
こちらに必ずお名前をお書きください。

〈2つの授業活動を比べてみると・・・?〉

AとB、どこが違いますか？

●学生は何を身につけますか？

A 自分であれこれ考える
既習表現の適用能力
表現の違いを考える習慣 など

B 与えられたものを選ぶ
一つの正解を探す能力

〈2つの授業活動を比べてみましょう〉


AとB、どこが違いますか？

⇒配布プリント：「漢字」「読解」「文法」

(1) 学生は何を身につけますか？

(2) 教師の役割は何ですか？

☆あとで
隣のグループと共有します。



〈2つの授業活動を比べてみましょう〉

隣のグループと共有しましょう！

- (1) 学生は何を身につけますか？
- (2) 教師の役割は何ですか？

☆あとで
みんなに1分間報告します。



〈2つの授業活動を比べてみましょう〉

話したことをみんなで共有しましょう！

- (1) 学生は何を身につけますか？
- (2) 教師の役割は何ですか？

1グループ



| | | 自己評価【例1】 | |
|-------|--------------------------|--|-----------|
| Unit | Topic | Can-do (Ich kann...) | Selfcheck |
| 33 | Mein Ziel | Über Vorhaben / Absichten sprechen / schreiben. (Infinitivform) 語っています。 ...つもりです。 ...予定です。 | |
| 33-40 | Krankheit und Gesundheit | Krankheitsbilder ausführlich beschreiben. Erklärungen sowie Anweisungen eines Arztes verstehen. ...かたしれません。(L. 32) ...はるがれいです。(L. 32) ...のはずじみです。(L. 38) ...のはぶですか。(L. 38) ...てみます。(L. 40) | |
| 34 | Familie (Book Kang Book) | Kang 家、父、母、兄、弟、弟、妹、夫、妻、彼、她、弟、妹 | |
| 35 | Schilder | Die Bedeutungen von Schildern / Aushängen erfragen und erklären. ...という意味です。 (Imperativ- u. Verbform) という意味です。 ...と書いてあります。 ...と書みます。 | |
| 44 | Mein-Do | Ablauf von Tätigkeiten (z.B. Kochen) ...あとで、... ...しないで、... ...は最初に、... | |

教師が全てを提示 (固定 Can Do)
〈自由度なし〉

自己評価【例2】

(年 月 日) 名前: _____
 [訂読り返り] シート]

A. 言葉、練習で何をしましたか？

B. 「正解になったこと」は何ですか？

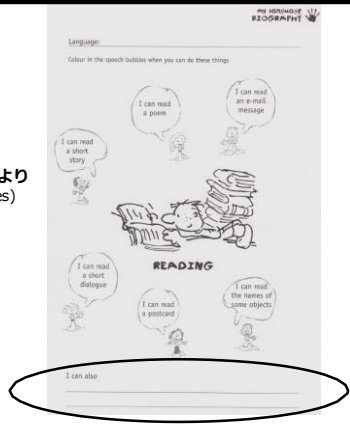
C. 「まだできないこと」は何ですか？

★私の2つの「がんばる！」

学習者が全てを記述 (自由記述)

自己評価
【例1 & 2の折衷例】

“European Language Portfolio: Junior version”より
(National Centre for Languages)



〈授業活動と自己評価〉

Aの活動後・Bの活動後、
学習者は「振り返りシート」に何を書きましょう？

今日、何を勉強しましたか？

今日、「できるように／上手になったこと」は何ですか？

「まだできないこと」は何ですか？



〈Bを「自律学習」につなげるには?〉

例えば・・・、

- タスク/課題への取り組み方
- 答えの確認・共有の仕方 等々



一人で取り組む

⇒ みんなで取り組む

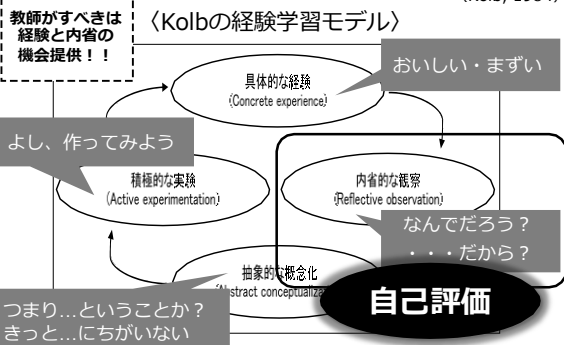
教師が教える

⇒ 仲間が教える

学習者が自分で考える時間・経験を奪わないこと!!

学習 = 「経験を変換することで知識を創り出すプロセス」

(Kolb, 1984)



(松尾 2006, p.63より)

「重要なことは、経験そのものよりも、**経験を解釈して、そこからどのような法則や教訓を得たか**ということである。言い換えれば、たとえ二人の人間が同じ経験をしたとしても、**経験の解釈次第で学習内容は異なり、その後の行動も変わる**といえる」

(松尾 2006, p.62)

言語学習の過程は持続的であり、かつ個人差がある。どんな言語の話し手でも、母語話者であろうと外国語を話す場合であろうと、二人として完全に同じ能力を持った者はいないし、同じ学習の道をたどった者はいない。

(CEFR: 2.2)

＜引用文献＞

松尾睦 (2006) 『経験からの学習—プロフェッショナルへの成長プロセス』 同文館出版。

Kolb, D. A. (1984). *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*. New Jersey: Prentice-Hall.

〈セッション3〉は、ペアワークを行います。
15:00までにお好きなペアで、ご着席ください。

休憩



A (漢字)

* たけしとメアリーの旅行日記 *



たけしとメアリーはドイツに旅行に来ました。二人のドイツの第一印象は? どんなことをしましたか。 12課・13課の漢字を使って、たけしとメアリーの日記を書きましょう。



12課の漢字: 早く 起きる 使う 働く 連れて帰る 一度
 今度 別れる 赤い 青い 色 昔々 人々 神社
 神さま

13課の漢字: 食べ物 飲み物 鳥 鳥肉 焼き鳥 料理 特に
 安い ご飯 朝ご飯 昼ご飯 牛肉 悪い 体 海
 気分が悪い 体に悪い 空港 空気 空 着く 着る
 着物 同じ

私たちは初めてドイツに来た。

漢字テストを作ろう! * 12課・13課の漢字テストを作りましょう。

12課の漢字: 昔々 神さま 神社 早く 牛 使う 起きる
 働く 別れる 連れて帰る / 連れて行く / 連れて来る
 一度 今度 別に 別々 赤 青 色
 13課の漢字: 食べ物 飲み物 買い物 鳥 肉 鳥肉 料理
 特に 特別 安い ご飯 体 悪い 空港 着く
 着る 着物 同じ 海 昼 朝ご飯 昼ご飯

【テスト】

例) 母は空まで飛んでいます。

B (漢字)

第12課 2 Using Kanji

① Write the appropriate mixes of kanji and hiragana.

1. _____、ある所に _____ がいました。
 ぶかしぶかし かみさま
2. _____ を _____、 _____ います。
 うし つかって はたらいて
3. 毎日、朝 _____、 _____。
 はやく おきます
4. 大人は _____、子どもは _____ のTシャツを着ています。
 あかい いろ あおい いろ
5. _____ の休みに、友だちを _____ _____ かけます。
 こんど つれて
6. そこで、友だちと _____。
 わかれました

② Using the kanji you know, translate the sentences into Japanese.

1. I like red color and blue color.
2. Let's go to see a movie in the near future.
3. I don't like getting up early in the morning.
4. I don't want to separate from you.
5. May I use a telephone?
6. I have to work this weekend.

第13課 2 Using Kanji

▶ Rewrite the hiragana with an appropriate mix of kanji and hiragana. Rewrite the kanji with hiragana.

1. 私の _____ で、日本の _____ と _____ は高いです。
 国 たべもの のみもの
2. 私は _____ の _____ が好きです。
 とくに とり にく
3. _____ に _____ に _____。
 ひる くうこう つきました
4. _____ は _____、 _____ を食べています。
 あさごはん 毎日 おなじ もの
5. _____ の _____、よく _____ に行きました。
 高校生 時 うみ
6. _____ が _____ になります。
 時々 気分 わるく
7. お母さんは、 _____ は _____、 _____ にいいと言います。
 ごはん やすくて からだ
8. _____ に _____ の経験でした。
 一生 一度
9. _____ の後、 _____ をして、 _____ を食べました。
 かいもの りょうり ひるごはん
10. この部屋は _____ が _____ ので、窓を開けましょう。
 くうき わるい
11. 日本で _____ を _____ みたいです。
 きもの きて

【読解】

1 落語は今から三百年以上前の江戸時代に始まりました。この時代にたくさんの方の前で面白い話をして、お金をもらう人がいました。この面白い話を落語と言います。落語をする人を落語家と言います。落語家は一人でいろいろな声や身ぶりを使って、面白い話をします。今でも落語はとても人気があります。

江戸時代の落語の一つ、「猫の皿」を読んでみましょう。

ある所に、一人の男がいました。男はいなかに行って古い物を買って、江戸でそれを高い値段で売っていました。

ある日、男は川の近くにある茶店に入りました。男は茶店でお茶を飲みながら、外を見ていました。その時、猫が歩いてきて、えさが入った皿の前で止まりました。男はびっくりしました。その皿はとてもめずらしい物で、一枚三百両もする皿だったのです。

男は思いました。

「茶店の主人はあの皿がいくらか知らないんだ。だからあんなに高い物を猫の皿に使っているんだ。そうだ！主人をだまして、あの皿をいただく！」

男は猫を抱き、にこにこしながら主人に言いました。

「かわいい猫だね。私は猫が大好きなんだ。前に猫を飼っていたけど、どこかに行っちゃって……。ご主人、この猫くれないか。」

20 「無理でございます。この猫は私の家族みたいで、とてもかわいいんです。」と主人は言いました。

「じゃあ、三両払うから、どうだ？」

25 三両というお金はとても大きいお金です。



「わかりました。猫をさしあげましょう。」茶店の主人はうれしそうに言いました。

「やった！」

男は心の中で笑いました。そして主人に三両払って、言いました。

30 「この猫の皿もいっしょに持って行くよ。」

「それはさしあげられません。」主人は言いました。

「どうして。こんなきたない皿。いいだろう。」

男は何度も頼みましたが、主人は絶対に皿を渡しませんでした。

男はがっかりしました。その時、猫が男をひっかきました。

35 「痛い！何だ、この猫！こんな猫、いらぬよ！」

皿はもらえないし、猫はひっかかし、最悪です。男は主人に聞いてみました。

「どうしてその皿を渡したくないんだ。」

「これはとてもめずらしい皿で、一枚三百両もいたします。家に置く

40 とあぶないので、こちらに持ってきたんです。」

主人は話を続けました。

「それに、ここに皿を置いておくと、時々猫が三両で売れるんですよ。」

（『初級日本語げんきⅡ【第2版】』The Japan Times, 第20課, p.327-328）

A (読解)

◆グループで「猫の皿」(7行目～最後)を読んで、次のタスクに取り組む。
以下、教師から学習者への活動指示。

①まず、この話を4つの段落に分けましょう。

②次に、4枚の紙芝居を作りましょう。

*話の内容がわかりやすい絵をかきましょう。

③紙芝居を見せながら、読み聞かせる練習をしましょう。

*授業の最後に、クラスの人々に発表します。

B (読解)

質問に答えてください。

1. 男はどんな仕事をしていましたか。
2. 茶店にあった皿の値段はいくらですか。
3. どうして男は猫をほしがったのですか。
4. 男はいくらで猫を買いましたか。
5. 男は皿を持って帰りましたか。
6. どうして主人は皿を茶店に置いておくのですか。
7. 茶店の主人と、男と、どちらがかしこい(clever)ですか。

（『初級日本語げんきⅡ【第2版】』The Japan Times, p.328）

A (文法)

『中級を学ぼう』第4課

6. 移動 V ばかり・ところ・とたん (p.61)

- A. ① (○) ネパールの学生は 2 週間前に日本に来たばかりだ。
 ② (×) ネパールの学生は 2 週間前に日本に来たところだ。
 ③ (×) ネパールの学生は 2 週間前に日本に来たとたんだ。
- B. ① (○) 私は今バイトから帰ったばかりだ。
 ② (○) 私は今バイトから帰ったところだ。
 ③ (×) 私は今バイトから帰ったとたんだ。
- C. ① (×) 家に帰ったばかり、電話が鳴った。
 ② (×) 家に帰ったところ、電話が鳴った。
 ③ (○) 家に帰ったとたん、電話が鳴った。
- D. ① (○) ネパールの学生は先週日本に来たばかりなので、まだ日本語が下手だ。
 ② (×) ネパールの学生は先週日本に来たところなので、まだ日本語が下手だ。
 ③ (×) ネパールの学生は先週日本に来たとたんなので、まだ日本語が下手だ。

| | いつ? | | 文の形 | | |
|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| | 今 | 少し前 | ～だ。 | ～、 | ～なので、 |
| ばかり | | ○ | | | |
| ところ | | × | | | |
| とたん | | | | | |

B (文法)

6. 「V_タところ」「V_タばかり」「V_タとたん」の整理せいり

1) 基本練習

- ①先月日本へ来た(とたん ところ ばかり)なので、まだ日本の習慣がよく分わかりません。
せんげつ に ほん き に ほん しゅうかん
- ②彼は手紙を読み始めた(とたん ところ ばかり)泣きだした。
かれ てがみ よ はじ な
- ③このパソコンは昨日買った(とたん ところ ばかり)なのに、もう壊れてしまこわった。
きのう か
- ④A：9時のバスは？
じ
B：たった今、出た(とたん ところ)です。
いま で
- ⑤エレベーターに乗った(とたん ばかり)非常ベルが鳴った。
の ひじょう な


(『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56
中級前期』スリーエーネットワーク, p. 68
より)

スイス日本語教師の会・第22回分科会（2017年9月10日：奥村）

3. 一緒に考えよう、最初の一手！：
「自律学習能力」アップのための味付け法

〈自律学習能力〉アップのために
どこをどんなふうに変えたらいいでしょうか？

「尊敬語」の教案に

〈自律学習的〉味付けをしてみましょう 

◆味付けのヒント

- ・この活動を通して、**学習者は何を身につけるか？**
- ・この活動における、**教師の役割は何か？**

自分で考える

みんなで考える

 20分

〈自律学習能力〉アップのために
どこをどんなふうに変えたらいいでしょうか？

「尊敬語」の教案に

〈自律学習的〉味付けをしてみましょう 

隣のペアと共有しましょう！



【導入：テキスト読解】

- ①ある先生の紹介文(です・ます体:A)を読ませる。[個人]
- ②ある先生の紹介文(尊敬語:B)を読ませる。[個人]
- ③スライドでAとBの違いを示し、「尊敬語」の概念について説明。

[全体]

教師が説明しなければ違いに気づけないか？

【尊敬語の導入・練習】

- ①対比プリントを配布し、ペアで暗記させる。[ペア]
- ②大判の対比表を貼り、尊敬語の空欄を埋めさせる。[全体]
※間違いがあれば、教師が訂正する。
- ③ます形のフラッシュカードを見せ、尊敬語を言わせる。[全体]

プリントがないと法則は発見できないか？

教師が訂正しないと誤りに気づけないか？

教師がいないと練習できないか？

【応用練習】

- ①先生の情報収集のために、尊敬語を使った5つの質問を考える。
※ワークシートに質問を書く。 [グループ]
※教師はグループを回り、間違いがあれば指摘し、直させる。
- ②クラスメートの前で先生に質問し、教師は答える。[全体]
※グループメンバーは先生の回答をワークシートに書く。

ワークシートがないと取り組めないか？

指摘は教師にしかできないか？


【宿題】

「テキストB」を参考に、ワークシートの内容に基づき、
先生の紹介文を書いてくる。
→提出後、教師添削・返却。

添削は教師にしかできないか？

私の授業、明日からどうしよう？


自分の授業を振り返り、

〈自律学習的〉味付けをしてみましょう 

1. どんな授業をしましたか？
教師は何をしましたか？ (3分×2)
2. 振り返りシート、学習者は何を書くか？
学習者はどんな力を身につけたか？ (3分×2)
3. 自律学習能力アップのために
変えられる点・工夫できる点は？ (5分×2)

私の授業、明日からどうしよう？

自分の授業を振り返り、

〈自律学習的〉味付けをしてみましょう 

隣のペアと共有しましょう！



〈自律学習能力〉アップを目指す授業の特徴

- ①問題解決のプロセスに力点を置いた活動
- ②段階的なコースデザインと指導

①問題解決のプロセスに力点を置いた学習活動

- ゴール/出口を明確にする (課題セッティング)
- ゴール/出口に辿り着く方法を考える

c.f. 母語話者と実際に接触しながら日本語を学ぶ過程に酷似

★母語話者の多くは、誤りを訂正することはできるが、
誤りの理由を客観的に説明できることは少ない。

☆よって、学習者は自分でその「法則」「理屈」を考察し、
応用させていく能力が必要。

自律的学習は、学習者の教室外での
日本語使用場面を再現したシミュレーション

②段階的なコースデザインと指導の必要性

- ある日突然「放置」しても学習者は戸惑うだけ
- 一度体験した学びは次への新しい「レディネス」となる

c.f. 青木 (2001) より

- ・実践を可能にする環境整備をするのは教師の仕事
- ・学習者たちが信頼関係を作れるようになるまでは教師のイニシアティブが不可欠
- ・学習者オートノミーは育てるもの。育てるのも、教師の仕事

自律的な学びを育てていくには、
段階的な「足場作り」と「足場外し」が必要

教師は何をどう学び合うべきか？

講師・チューター フィードバック

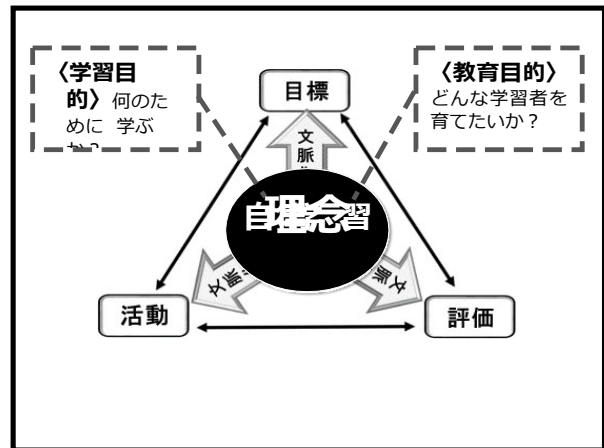
◆今学期の授業／Tutoriumで「うまくいった！」と思う**トップ3**を思い出してみてください。その理由や背景も思い出して書いてみてください。

- 1.
- 2.
- 3.

◆今学期の授業／Tutoriumで「失敗した！」と思う**ワースト3**を思い出してみてください。その理由や背景も思い出して書いてみてください。

- 1.
- 2.
- 3.

◆来学期の「マイ CanDo」を3～5つ考えて書いてみてください。(できるだけ具体的に)



「今日の振り返りシート」を書いてみましょう！

!!!最初に書いたものと何か変わりましたか？

私は、

学習者を育てたい。

私は、

日本語教師になりたい。

こたえる

答える
(answer)



応える
(respond)

共に悩んで、考えるプロセスを共有する

〈延命治療における医師の役割〉の変化 より
※自律学習に関わる教師の役割との共通点が見られる

<引用文献>

青木直子 (2001) 「教師の役割」, 青木直子・尾崎明人・土岐哲 (編) 『日本語教育学を学ぶ人のために』, pp.182-197, 世界思想社.

奥村三菜子 (2011) 「CEFR実践のための教師研修を考える—教師のための『CanDoセルフチェック体験』を例に—」, JFパリ日本文化会館・編 『ヨーロッパの日本語教育の現状—CEFRに基づいた日本語教育実践とJF日本語教育スタンダード活用の可能性』, p.164-180.

牧田秀昭・秋田喜代美 (2012) 『教える空間から学び合う場へ—教学教師の授業づくり—』 東洋館出版社.

長〜い一日、

おつかれ
さまでした!

初級授業の教案例

対象者：A2 レベルの一般成人（12 名） 授業時間：60 分

* [個人] = 個人作業、[ペア] = ペアワーク、[全体] = クラス全体活動

| | |
|------|---|
| 目的 | (1) 自律学習能力、協働学習能力の向上 (2) 日本語運用力の向上 |
| 目標 | 日本語の先生の紹介文を書くことができる |
| 指導項目 | 「尊敬語」 |
| 時間 | 活動 |
| 15 分 | 【導入：テキスト読解】 ①ある先生の紹介文（です・ます体使用）を読ませる。[テキスト A][個人] ②ある先生の紹介文（尊敬語使用）を読ませる。[テキスト B][個人] ③スライドでテキスト A と B の違いを示し、「尊敬語」の概念について説明。[全体] |
| 20 分 | 【尊敬語の導入・練習】 ①ます形と尊敬語の対比表プリント*を配布し、ペアで暗記させる。[ペア] ②大判の対比表を黒板に貼り、学習者数名に尊敬語の空欄を埋めさせる。[全体] ※間違いがあれば、教師が訂正する。 ③ます形のフラッシュカードを見せて、尊敬語を言わせる（口頭練習）。[全体] |
| 25 分 | 【応用練習】 ①先生の情報収集のために、グループで尊敬語を使った 5 つの質問を考える[グループ] ※ワークシートに質問を書く。 ※教師はグループを回り、間違いがあれば指摘し、直させる。 ②クラスメートの前でグループごとに先生に尊敬語で質問し、教師は答える。[全体] ※グループメンバーは、先生の答えをワークシートに書く。 |
| 宿題 | 「テキスト B」を参考に、ワークシートの内容に基づき先生の紹介文を書いてくる。 →提出後、教師添削・返却。 |

「配布プリント」*

| おぼえましょう！ | |
|----------|------------|
| ます形 | 尊敬語 |
| 行きます | いらっしゃいます |
| 来ます | いらっしゃいます |
| います | いらっしゃいます |
| 食べます | めしあがります |
| 飲みます | めしあがります |
| 見ます | ごらんになります |
| します | なさいます |
| ～ています | ～ていらっしゃいます |

「私の授業」振り返りシート（自律学習能力アップ注目編）

氏名： _____

(記載日： 年 月 日)

| <u>対象者</u> | レベル() 人数()名 | |
|------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| <u>科目</u> | 総合 会話 読解 聴解 作文 漢字 その他() | |
| 1 | どんな授業をしましたか？ | |
| | <u>教師は何をしたか？</u> | |
| 2 | 振り返りシートがあったら、学習者は何を <u>書く</u> と思うか？ | 「今日何を勉強しましたか？」 「できるようになったことは何ですか？」 |
| | 学習者は <u>どんな力</u> を身につけたと思うか？ | |
| 3 | 自律学習能力アップのために <u>変えられる点・工夫できる点</u> は？ | |

2012 年 9 月 19 日

WS 12/13 講師全体ミーティング：第二部 講師研修会
いいものは真似しよう！

*SS 12 フィードバックの「**トップ3**」の中から抜粋させていただきました。
以下の内容について、各自 **5 分間のプレゼン**をお願いいたします。

< 5 分間プレゼン担当表 >
(発表順)

| 発表者 | 内容 | |
|----------------|---------|---|
| M | 授業実演 | 教科書のペアワークと指示のある練習問題の文を一文ずつカードに書いてグループごとに渡し、練習させた。終わったらそのカードを次のグループに回させた。練習問題の文の数がグループの数より少ない場合は、こちらで練習問題を追加した。 |
| K | | 課の会話を扱う前に、4 枚の会話の絵を 4 コマ漫画のように見せて、簡単な会話を作ってみさせてから、DVD を見る。 |
| S | | フォローイングやシャドウイング、まとめのリスニングを繰り返し、意識して多くのインプットを行いました。また、ある程度課に慣れた頃、DVD を見てアフレコをしてもらいました。 |
| H | | 漢字指導の一貫なのだが、読解ストラテジーの導入の目的もあり、文章から情報を的確に抽出出来るかという作業の一つとして、テキスト内から漢字だけ、あるいは漢字とその漢字が含まれる節・文章を取り出し、情報を読み取る練習を学期を通じて毎課行った。 |
| B | マテリアル紹介 | 教材として、「"スキーマとして使える" 漢字・語彙導入ワークシート」を作ってみた。教科書のスキーマ作りとして使える活動部分をスキャンして、新出漢字・新出語彙を書けるように加工した。 |
| O | | 学期末に各課の CanDo ワークシートを全て集めた「ワークシート縮小版」と「噴出し文型リスト」の両方を使って復習。その後、「噴出し文型リスト」なしで、各課の CanDo に取り組む。 |
| T ₁ | | 二ゼメの授業に全面的にパワーポイントを取り入れた。(1. わかりやすい、2. 授業がスムーズになる、3. 小ミスが減る) PPT 資料の作り方が悪く、実際の授業で流れが良くなかった(失敗した)場合でも、何がよくなかったのか意識化しやすい。 |
| F | 実践紹介 | 今学期は、授業後にうまく行ったところ、失敗したところ、気づいたことを教案にメモしておいた。 |
| R | | L18「お礼の手紙」：「日にち、誰に」を設定し、3 人グループで書かせた。「季節の挨拶、何のお礼、終わりの挨拶」「書く人」を決め、すべてのグループが、自分たちで間違い確認⇒T アンダーラインチェック⇒間違い直しをし、時間内に提出できた。 |
| H ₁ | 実践説明 | 授業前半は毎回違う方法で進めることになったが、色々な読解の仕方があると解釈してくれていたら嬉しい。 |
| T ₂ | | 4 ゼメの文法講義。文法の体力づくりを行えた。テキスト分析を通してテキストレベルの文法に注目させた。 |
| T ₃ | | 会話・文法の連関：文法で「変化を表す『～につれて』『～てくる・ていく』表現」を扱う時、会話で使用済みのグラフ資料を見せた。たったそれだけのことで、学生の頭の中でもつながりができたようで、授業もスムーズに進んだ。 |
| Y | | 学期の途中から教科書を離れて今までやったことのない投書を読み、文法と会話 で連携して作業をし、最終的にはビジターセッションで日本人と話すのだ、という授業の流れをはっきり説明できた。 |

マイCandoチェックリスト（言語教育ポートフォリオ：日本語）

抜粋

講師名：××××

| 記録日 | Cando | 自己評価 | | | 記録 |
|-----------|--|------|---|---|---|
| | | A | B | C | |
| 2010年3月8月 | <ul style="list-style-type: none"> 担当のゼムスターが、EMI～VMIII 全体のどこに位置するかということ意識して毎回の教案を作ることができる | | | | <p>今学期は VMI(KK)と VMIII(KK)が担当だったが、ほぼ全てのゼムスターを担当した(2ゼムKKだけが未経験)からか、やっと全てのゼムスターを通した流れが見えてきたようだ。前後のゼムスター、他科目(GL, VMIは+文法)との関連も考えながら教案作りができたと思う。ただ、自転車操業で余裕がなかったり、それどころではなかった時もあったので、「毎回」ではなかった。</p> <p>「各課の最重要 Cando」を最優先した教案作り・授業運営で、自分の中で「今日は何をするべきか」ということが明確になった。特に VMIIIは2回目ということもあり、経験的に「どこに時間をかけるべきか」がわかっていたので練習やすかった。しかしながら初めての VMIII KK では、予測できないことが多かったため、70点くらい。</p> <p>上記同様 VMI では「タスクの意義が見えていたので、前回担当した時のタスクシートを改善したものを使用し、成功したものがいくつかあった(いまいちだったものもあり)。この Cando は、来学期も持ち越し。</p> <p>マイポートブックと重なるが、VMIII KK では、各課に一つの目標 Cando を設定し、各課が終了するごとにセルフチェックシートに自分の評価と学んだことを書かせた作業を通して、ある程度「学びを実感」できたのではないかと思っている。グループ・プロジェクトに関しては、友達同士でグループを作らせたことで、授業外のグループ作業が比較的うまくいった印象を受けた。また、VMIII では、目標 Cando が一本化されていたことで、学生もそれに向かって取り組んでいた様子だったが、VMI ではこちらも全面的に明示していなかったせいもあり、目標 Cando が薄れてしまっていた課があったと思う。<u>今後の課題</u>…。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 全体での位置づけの意識に加え、ゼムスターを通しての課の位置づけも考えて教案を作成することができる;前の課の○○と現在の課の××、そして次の課の△△ + KK・GLとの連関性を考えた教案作りと授業運営ができる 各タスクの意義を把握した上での教材・教案を作成することができる | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> グループワークやプロジェクトワークの問題点(やる学生とやらない学生の不平等、何が学べるかが学生に不透明になることがある etc)を見つめ直して、学生が「何を学んだか」が実感できるような授業作りができる | | | | |

今日の振り返りシート



*この振り返りシートの記述内容は、研修事例として研究や発表等に使用する可能性があります。個人が特定されるような取り扱いは決していたしませんので、何卒ご了承ください。

◆今日、「知った」「わかった」「気づいた」ことは何ですか？

◆今日、「より深まった疑問」は何ですか？

◆明日から「始められる」「やってみたい」と思うことは何ですか？

私は

学習者を育てたい。

私は

日本語教師になりたい。

今日の振り返りシート【まとめ】

(回答数：44)



◆今日、「知った」「わかった」「気づいた」ことは何ですか？

<「自律学習」について>

- ・自律学習について詳細を知ることができた。
- ・今までレベル2程度だった自律学習について、レベル3くらいになりました。
- ・自律学習とは何か、理解できたような気がする。実践もそれほど難しくないのかも？
- ・自律学習の有効性、必要性。学習者にとって、より利益のある学習方法。
- ・自律学習の大切さ。
- ・自律学習の重要性。
- ・「自律学習」の捉え方。
- ・「自律学習」は少人数の仕事帰りの疲れた成人向け授業にはあまり向かないのでは？という懸念があったが、大きなまちがいだった。
- ・自律学習とは自分達で考えさせること、その時間を奪ってはいけないということ。
- ・学習者の「気づき」の大切さを学んだ。
- ・学習者自身に気付かせることの大切さ。
- ・生徒に考えさせる学習。
- ・モチベーションを持っているということが自律学習そのものと直結する。
- ・共に学び合うことを大切にしている点や、理念（根幹）をしっかりとって教育に取り組んでいくことは、改めて大切だなと思った。
- ・自律学習が身につけば、人は一人でもどこでも学ぶことができるようになるということ。

<授業実践に関して>

- ・単にペアやグループワークをすることではなく、そこに学習者自身が気づく活動であったり、ハッと思わせるしかけが必要であるということ。
- ・自律学習能力を使った学び方の大切さ。自律学習能力はグループレッスンだけではない。教師は常にこのことを頭に置いてレッスンを進めること。
- ・ペアやグループで学習することによって、生徒同士も意見を言い出しやすくなる環境になること。個人でできることは授業内ではなく、授業中はできるだけ他者とのかかわりを大切にすべきだということ。
- ・ペアまたはグループで学習するとより定着度が増す。
- ・学習者が中心の自律学習に向けて自分の教案を見直さなければ。
- ・生徒に考えさせる機会を授業の中で増やしていきたい。また、グループで取り組ませる活動をもっとしたい。
- ・これからの授業に更に取り入れることで、もっと楽しく能動的なクラスにできると思う。
- ・教師の進め方一つで授業が学習者中心のアクティブなものになることを実感した。また、それが想像できる。

- ・受動ではなく、生徒が自ら気付き、活用する楽しさを得られるような授業作りを意識しなければいけないということ。
- ・いつ生徒の足場を外してあげるか、外すか。
- ・自律学習の方法は今までもたくさん自己検索してきたが、そうでない単調な課題にもどんな味付けができるか、視点を変えて疑問を問いかけてみることの大切さを知った。
- ・最近の自分の授業を振り返り、自律学習に“味付け”できる部分がまだまだ多くあることに気づいた。
- ・Bタイプの教材であっても活動内容ややり方によっては自律学習を促す授業にできること。
- ・今までおろそかにしていた学習者の振り返りをもっと今後しっかりしたい。
- ・出口を先にはっきりさせることで、学習内容の見直しができる。繰り返し見直すこと！
- ・自律学習の進め方の具体案について。
- ・とても楽しいアイデアをたくさん見せていただきました。
- ・プライベートレッスンでも自律学習をサポートできる点は多々あるということに気付いた。
- ・今までも部分的に自律学習を自分の授業に取り入れていたことがわかった。
- ・自律学習については何となく知ったつもりでいたけど、実際の授業に生かそうとはしてこなかったということに気付かされました。

＜教師／自分自身の姿勢に関して＞

- ・学習者のみでなく教師も自律学習能力をつける必要性が大きいことを気づかされた。
- ・自律学習はまず教師が意識してやっていくことである。
- ・過保護な教師になってはダメだということ。
- ・私は学習者に対して過保護だったことがわかった。
- ・自分の授業が説明過多だと気づいた。今夏、自分もドイツ語講座を受講し、ペアワークで自分が独語で相手に説明した授業の方が聞くだけの授業よりはるかに心に残っていたのに、この経験を生かせなかった。反省。
- ・自律学習の重要性は常々感じながら、どうしても一方通行のレッスンをしてしまいがち。学習者の意欲と興味を一層引き出しながら、学習者がひとり立ちできるような日本語教育をしていくことが大切だと思う。
- ・日本で自分が受けてきた小中高の教育は教わることに重視を置いた教育なので、教える側に立ってもそのクセが抜けないでいる。
- ・Textbookに頼って楽をしている自分に改めて気づいた。
- ・教師は生徒にすべてを教えたり示す必要はないということ。
- ・教師が学習者の考える時間、自律学習へのチャンスを奪っていることがあるということ。
- ・放置と見守りは違う。
- ・見守ると放置は違う。
- ・自律的学習を目指した授業の方を自分はずっと向いていた。
- ・私がいつも大切にしていることは、言葉の学習だけでなく、何事に対しても想像力を発揮する（養う）ということ。今日セミナーに参加させていただいて、更に生徒さん達の

想像力を引き出す授業に力を入れたいと思った。

<教師の自律と協働に関して>

- ・いろいろな先生方と話し合うことで、もっと工夫できる点があった。
- ・他の人と話し合うことで、いろいろな考え方、物のとらえ方があるということが改めてわかった。
- ・自分の授業を振り返り、人と話すこと。人と話すことにより気づきが深まる。
- ・皆と作業することはおもしろいし、楽しい。
- ・短い時間でもトピックをしぼって集中すれば結論が出せる。
- ・ポイントをしぼることで短時間でも濃い話し合いができた。
- ・マイナス+マイナスはさらに大きなマイナス→ポジティブな意見交換のほうが有意義だ！
- ・「いいものは真似しよう」がとても面白いアイデアでした。

<その他>

- ・CEFR：自律学習、協働学習が学習者にとって大切であることがわかった。
- ・CEFR の理解が深まった。
- ・教師として教えることと子育ての共通点が多い。
- ・時間管理を厳しくするとメリハリのある授業ができそう。

◆今日、「より深まった疑問」は何ですか？

<現状との兼ね合いについて>

- ・限られた授業時間（スイスでは往々にしてカルチャーセンターにしろ学校にしろ週 1~2 時間というパターンが多い）内で、どうやって自律学習を推進させていけるか。
- ・自律学習の良さ、大切さはよくわかったが、カリキュラムや授業時間数の制限の中で、どのように取り入れられるか、よくわからない。大きな課題である。
- ・限られた時間で、どのようにして、できるだけ学習者の個性を生かせるか。
- ・自律学習能力をアップさせる授業は従来の授業より時間がかかるので、30 人近くいる学生さんのクラスで時間が限られている場合にもうまく応用できるのか？
- ・自律学習、協働学習は今日できるだけ取り入れるべきで、取り入れようと思ったが、補習校の限られた時間でどこまで取り入れられるか。
- ・扱う教材や授業時間、グループかプライベートか、年齢的なものも含めて全てを取り入れるのは難しいかもしれないが、もう少し授業に活動を取り入れたい。
- ・プライベートレッスン中心の教育活動で、学んだことを生かせるのか、確かでない思いを依然抱いています。

- ・プライベートレッスンでいかに自律学習を取り入れるか？
- ・仕事が終わって疲れている学習者に、いかに抵抗なく自律学習をさせることができるか。
- ・ヨーロッパの学習者の限られた環境での学習指導の仕方。
- ・自律学習を『まるごと』に応用する仕方。
- ・現在使用している『みんなの日本語』の使用とⅠとⅡを終えた後の初中級の教本について。

<実際の実践に向けて>

- ・どうすればうまく足場作り、足場はずしができるか。
- ・足場の外し方、タイミングなど。
- ・ペアワークで力の違う両者がメリットを得られるにはどう持っていったらいいか考えてみたい。
- ・想像以上に学習者がのってこない場合はどう対応するのか。その場ですぐ対応できるのか。
- ・クラスの信頼関係を良くすること。
- ・みんなで考える、自分で考えるプロセスが大事なことはわかったが、そこからが難しいと思った。
- ・まだ学習を始めたばかりの生徒はどの程度まで自律学習を行うことができるのか、どのように行えばよいのか。
- ・各課の導入部分で自律学習は入れにくい。どのようにしていけばいいのか。
- ・何回も振り返りシートに挑戦してきたが長続きしないのはなぜだろう…。
- ・どんな活動をどこまでグループ活動にできるか。
- ・学習における経験のプロセスを見て、どうやったら効果的な授業活動ができるか考えてしまった。私の今の授業を振り返って、具体的経験さえできていないのでは…。
- ・漢字の練習 A はとてもおもしろいと思った。いつも漢字の扱い方が単調になってしまうので、漢字の力を伸ばしていく方法をもっと知りたいと思った。

<教師の役割に関して>

- ・足場作りは教師の仕事であるが、その後見守りの時期に教師は具体的に何ができるのか、また、何をすべきなのか？
- ・自律学習を教師がどのように導いていけるか、教師としての自分に対しての能力。
- ・教師の関わり方。

<グループ学習と個人の学びに関して>

- ・協働学習の中から考える個人化への持っていき方。
- ・「ここまで」の設定を行うのは常に自分の側だったが、数人いる学習者各自の最大満足の落としどころって何だろう。

<学習者に関連して>

- ・学習者は何を目標しているのだろうか。

- ・学習者の希望に耳を傾け「どんなことがどんな風にできるようになるのか」ということを教師が様々なアイデアを探求し続けてやっていくにはとにかく時間がかかるように思う…。
- ・教師が教えようと思ったことと、生徒が学んだことの差について。
- ・自律学習能力アップにはやはりモチベーションが必要だと思う。そのモチベーションを見つけ出すにはどうしたらよいか？
- ・台湾出身の学習者が「もう少しつめこみ授業をしてほしい」と欲望があった。気づきの自律学習とのバランスをどう取ればよいか？
- ・自律学習を学習者においしいと思ってもらうのは難しいということ。

<まずはやってみます！>

- ・実践してみても疑問が深まってくるかと思う。これから色々試していきます。
- ・失敗したなと思った授業に自分なりの疑問や改善策を考えてきたが、具体的な視点の転換法をもう一度まとめてみたいと思う。
- ・カリキュラムの作り方、時間の有効利用。やろうと思うときりもなく、どういう目標を立て、どう進めていくのがベストなのか。
- ・「明日から、授業、どうしよう…」?! いえいえ、そこをもう一度踏ん張って「振り返りの大切さと、実際に果たして自分の置かれている環境でそれができるのか…?!」考えてみます。

<その他>

- ・私の指導法は独特かなあ。
- ・まず自分を変える。
- ・CEFR のアプローチを好まない同僚と何をポイントをしぼって話し合えばよいか。

【講師からのメッセージ】

疑問が生じたということは、研修内容をそれだけ自分のこととして捉えたということに他なりません。他力本願ではなく、自力で問題を乗り越えようとしているからこそ疑問が生じるのだと思います。多少物騒な物言いではありますが、自律学習とは「自分で自分に落とし前をつけることである」と私は考えています。つまり、ここに挙げられた「疑問」は、自分で自分に落とし前をつけようとする前向きな姿勢の現れであり、自己責任を負おうとする責任感とプロ意識の現れとも言えるでしょう。

セッション3でお話しさせていただいたように、疑問や課題は多くの場合、成功例などのポジティブな視点により解決することが多いです。ここに挙げられた「疑問」の多くも、冒頭の「今日『知った』『わかった』『気づいたこと』」にそのヒントを見つけることができそうです。自分が書いた「疑問」に対するヒントが潜んでいないかどうか、ぜひ「今日『知った』『わかった』『気づいたこと』」をよく読んでみてください。それでも困ったら、教師会の仲間、同僚、先輩などと話し合ってみてください。そして、学習者の力を信じてください。必ず光は見つかるはずですよ！（奥村三菜子）

◆明日から「始められる」「やってみたい」と思うことは何ですか？

<授業準備に関して>

- ・ 教案を作る時に自律学習的な味つけができないか考えて工夫すること。
- ・ もっと有効な自律学習の工夫をよく自分でも考えてみます。
- ・ 学習者が授業後に思うことをあらかじめ考えてから計画を立てる。
- ・ 生徒が能動的になるような工夫。(あまり細かく教えず、気づかせる、自ら考える、グループワーク。)
- ・ 一緒に話をすることが楽しいともっとお互いに思える工夫。
- ・ 学習活動のゴール／出口を明確にしたい。
- ・ しかけ作り。
- ・ 持っている教材をうまく活用すること。素材を生かすのは教師自身、素材(教材)をうまく料理していきたい。
- ・ 学習者の気づきをうながせるような教材利用と教材作り。

<授業実践に関して>

- ・ 導入部分から自律学習を活用する。
- ・ 部分的にでも「自律的」な活動を入れる。
- ・ さらなる自律学習授業の試み。
- ・ ペア活動、グループ活動をもっと取り入れてみたい。
- ・ グループ活動。
- ・ もっとピア添削やルールを自分で考えさせる時間を取り入れたい。
- ・ 教えるだけでなく、自ら考えて能動的な学習を行ってもらえるような授業をする。
- ・ 穴埋めドリルや今までのパタプラに加えて、一步進めた“自律”(自分で考えて、あはーなるほど!)を促す授業に積極的に取り組んでいきたいと強く思う。
- ・ 言葉の導入のためにつかっていたパワポ(写真→その後導入語の提示→発言)は、定着のための活動などに考え直し、言葉の導入も学習者主導で始める。
- ・ 文型のルール発見あるいは復習の説明を私1人で説明するのではなく一緒に思い出してもらおう&説明してもらおう。(次のて形の復習レッスンの時にトライしてみようと思う。)
- ・ 私が話を聞いて助詞などの訂正をするだけでなく、多くの質問をして正しいinputと発話を促すこと。
- ・ はじめから教師が正解を出してしまわない。文法さえも生徒に考えさせることができるという発見!
- ・ 単語や漢字などを覚えるだけでなくそれを使えるようなプラン作り。
- ・ Aタイプの漢字導入。
- ・ 補習校の5年生で漢字のAをやってみたい。
- ・ いただいた練習問題Bを変えたものを使う。
- ・ 今までも自分なりに自律学習をやってきたが、先生が教えて下さった方法も試してみたい。

- ・漢字のワークショップにおいて、生徒同士の「自分が見つかった漢字のコツ」を披露＋お互いに助け合う時間を持たせたい。
- ・一度使った練習問題を使って、別の部分を練習させたり、応用問題を作ったりして、やりっぱなしにせずリピートさせることで理解の定着を図る。

＜学習者への関わり方に関して＞

- ・学習者の自律学習を邪魔しない。
- ・学習者に邪魔にならない、足を引っばらない教師になりたい。
- ・相手の考える時間を尊重する。
- ・教師がすぐに答えを出さないようにしようと思う。
- ・過保護にならない、を念頭に、できるだけ学習者に考えさせ、その内容を発表させ、それをその場で共有していきたい。
- ・学習者への問いかけを増やし、学習者自身に考えてもらうことを増やす。
- ・自分の出番の減らし方を再考。
- ・生徒の気持ちになって授業に取り組みたいと思う。

＜学習者の内省に関して＞

- ・振り返りシート。
- ・振り返りシートを再度見直し、Can Do チェックをもっと有効活用したい。
- ・自己評価表に自由欄を設け、各授業の終わりに書かせる。
- ・毎回、今日の授業でわかったこと学んだことを、生徒に考えさせる。
- ・学習者の振り返りシート、今までは評価表的だったが、自分の言葉で何を学んだか、何ができるようになったか、何が足りないと思うかなど、A1・A2・B1・B2・C1・C2の区切りごとに書かせてみようと思う。

＜自己内省に向けて＞

- ・今までの教室活動を自律学習の観点から一つひとつチェックしていく。
- ・うまくいった授業について、なぜうまくいったかを考えて今後も生かそうと思う。
- ・自分の授業の良い点を次の授業に生かすこと。
- ・教案を書くだけでなく、すぐあとでその授業の反省点を必ず書き出しておく。
- ・自分の授業案の振り返り、改善。
- ・先週金曜日に失敗した授業を自律学習型で考え直してみたい。
- ・教案の見直し！
- ・他の教師と少しの時間でも自分の授業、または他の授業について検討し合うこと。
- ・日ごろマンネリ化している授業をもう一度見直したい。

●私は 学習者を育てたい。

自律学習能力のある
自律的に考える
自分で自律的に学ぶ
自分で考える活動的な
自分でよく考え学んでいくことのできる
自分で考えながら学習しようとする
自分で興味を持って、自分で進んで勉強する
自分で学び、気づき、考えることができる
自分で知りたいことを調べて学ぶことのできる
自律学習を身につけ、日本語学習を続けてくれる
自律学習・協働学習によって、目標に向かって意欲的に学ぶ
自分で学びをかちとる
自分の興味があるものについて進んでいく力のある
自分で考えて自分で日本語を使える
自ら考え、疑問を持って学習していく
“なぜ”と問える
自分が何をどのように何のために勉強したいかをはっきり自覚して意欲的に学習したがる
自分に合った学習方法・内容が見つけられて実行できる
困難が起こった際でも人や物を有効に使って（頼って）解決策を導き出せ、物事をポジティブに捉えることのできる
より一層、自律協働活動のできる、コミュニケーションの図れる
やりたいと思ったことができるようになる／夢を見続ける、共に笑える
教師がいなくても、楽しくモチベーションを持って日本語を続けていってくれる
発見と学びが楽しいと思っ止められない
学ぶことが楽しいと思える
日本語を勉強することに楽しみを感じ長く続ける
共に学ぶ学習者と、日本を学ぶプロセスを楽しみながら学ぶ
日本語を楽しく学びに来て、他の人と協調して教室を活発にできる
楽しく参加してくれる
習ったことを学生の目標に生かせる
毎日の生活の中から学べる
想像性・想像力のある
学習した言葉で自己表現ができる
話せる（相手に伝わる）日本語を話す
日本語を勉強していてよかったと思ってくれる
日本語が好きで、運用できる
日本と日本語が大好きな
日本文化に興味を持ち続けてくれる
日本・日本語が大好きで、一人でも仲間とでも楽しく自分で学ぶ
日本語・日本文化を面白く感じ、学ぶことに喜びを感じる
国際的な視野を持った、世界の平和に貢献できる、日本が好きな、日本を愛する
日本語を通して日本とスイスのかけ橋になれるような
みんな協力して、民族間・宗教観・国際問題など、問題を解決できる

●私は 日本語教師になりたい。

学習者の足場を作り支援できる

学習者が困った時に、いつでも対策を持ち、分からない時には共に悩み、サポートもしくは解決策を提示できる

知識を教えるのではなく学ぶ方法を見つける手伝いができる

学習者のニーズにこたえて、柔軟にサポートできる

学習者に目標と興味を持たせて目標達成に向けて支援する

学習者が興味のあるものについて進んでいくのをサポートできる

自分で興味を持って自分で進んで勉強する学習者を育てられる

出しゃばりすぎずに学習者に必要なサポートを提供できる

自ら考え、疑問を持って学習していく学習者をしっかり支えていける

自分で学びをもちとれる学習者を支援する

学習者が達成感や自己発見のできる授業を提供できる

生徒の自律性・自主性・アイデアを大切にする

学習者が自分でも知らなかった能力などを引き出せて、自信をつけさせられる

言葉や想像力を引き出せる

学習者が自分に合った学習方法・内容が見つけられて実行するのを支援できる

学習者の学びの道すじを段階的につくっていき、適切に手助けできる

自律学習ができるように上手に導いていける

学習者の自律学習を最大限に引き出す

見守る

学習者を見守れる

生徒に自発的に活動させる

生徒がいつの間にか自然に学べるしかけが作れる

学習者主体のレッスンをやる

学習者を導きながら伴走できる

良き伴奏者である

生徒の学ぶ力、学びたい気持ちに寄り添える

日本について学ぶモチベーションを保つお手伝いをするパートナーである

生徒の心に火をつける／motivation を高め、持続させられる

学習者の立場に立てる

生徒と一緒に学ぶ

生徒たちと共に学び、考えていくことができる

日本語を学ぶ楽しさを教えられる

アクティブな楽しい授業のできる

生徒ができる！わかった！と楽しく授業を受けることができる場を提供できる

場を温められる

やっぱり先生との時間は発展があるからいいなーと思ってもらえる

この先生につけば夢がかなうかもしれないと信じてもらえる／毎週会いたいと思ってもらえる／共に笑える

良心のある、労をおしまないで頑張れる

自分自身が周りの人と協力しあえる

いつも振り返って自分を見直す余裕のある

日本と日本語のよさ、美しさを伝えられる